

羽田発着枠配分基準検討小委員会の設置について

1. 趣旨

国土交通省では、「国土交通省成長戦略」に基づき、平成 25 年（2013 年）夏期ダイヤ（平成 25 年 3 月 31 日～）を目標として 1 日 25 便（年間約 2 万回）の羽田空港国内線の発着枠拡大を行うこととしている。

羽田空港は我が国の基幹空港であり、航空ネットワークの中核となる空港であることから、その国内線発着枠は国民の貴重な財産であり、当該発着枠の航空各社への配分については十分な議論・検討を行う必要がある。

そのため、平成 25 年夏ダイヤからの増枠に向けて、多様な論点について専門的・技術的見地から検討を行うため、交通政策審議会航空分科会の下に「羽田発着枠配分基準検討小委員会」を設置することとした。

2. 主な論点

別紙参照。

3. 今後の進め方

- 第 2 回小委員会（8 月 22 日予定）にて、羽田空港発着枠配分の関係者（※）より、上記論点を中心とした内容についてヒアリングを実施。
※小委員会オブザーバー 6 社及び全国空港建設整備促進協議会
- 第 3 回以降の日程等については 9 月以降で調整中。

政策的見地からの検討事項

(より広い政策的視点との関係)

・国家の安全保障等より広い政策的視点についてどのように考えていくべきか。

(市場メカニズム等政策的配分のあり方)

・観光をはじめとする地域活性化の観点も踏まえ、意欲的な地域を積極的に評価した配分を検討すべきではないか。

・スロットオークション等市場メカニズムを活用した配分方法を検討すべきではないか。

評価項目のあり方に係る検討事項

(ネットワークのあり方)

・国内航空ネットワークの縮小の進行等を踏まえ、地方航空ネットワークの維持・充実を促進するさらなる施策が必要ではないか。

(産業政策・競争促進のあり方)

・航空会社の評価をどうすべきか。新規航空会社には引き続き発着枠を優先配分すべきか。大手と同様の評価方式で配分すべきか。

・航空会社を評価する際、エネルギー効率等環境の視点や産業政策の視点をいかに考えるべきか。また過去の実績のみならず、今後の経営計画についても評価すべきではないか。

(安全の評価)

・航空会社の安全性の評価を積極的に行うべきではないか。